

科目名	国際経済コミュニケーション論	科目分類	■専門科目群 □総合科目群		
			経済学部	□必修 ■選択	
				□必修 □選択	
英文表記	International Communication	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	さかもと こういち	実務家教員担当科目		修得単位	2単位
担当者名	坂元 浩一	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	英語で学ぶ外国語と経営学				
到達目標	この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できる。 1. 英語やその他の欧州言語の基本を使えるようになる。 2. 国際的な経営の実際を十分に理解できるようになる。				
授業概要	本科目は、経済学部の専門科目の中の「自発性開発科目」であり、英語「を」学ぶのではなく、英語「で」他の外国語と経営学のマーケティングを学ぶ。授業で使う言語は原則、英語であるが、学習対象が他の外国語の挨拶や商品であり、また英語のキーワードが沢山使われる経営学の基本であるので、理解は難しくない。また、受講者の英語力と関心度を考慮して、易しい英語で繰り返して理解させるようにする。 他の外国語の挨拶は繰り返すことにより、身につく。経営学のパートについても、似たような商品や企業を扱うので、より理解が深まるということになる。さらに、パリなどの都市の地図を使って、スターバックスなど多国籍企業の展開を学ぶといった実践的な内容もある。 「マーケティング基礎論」を履修すると、重要な経営用語（英語由来）を学ぶので、本授業の英語による説明がわかりやすい。 この授業は担当教員の次の英語経験（延べで約35年間）に基づくものである。 【実務者としての職歴(特に英語での指導歴)】 ・国連マクロ経済専門家として4年間、英語圏のアフリカの国の政府に勤務して、エリート官僚に技術指導。 ・インド政府機関で1年間、インド人とマーケティングの業務に関わる。 ・経済コンサルタントとして、約10年間、世界銀行などの国際機関、欧米の政府機関、途上国の政府機関の専門家にインタビューした。 ・研修講師として、約10年間、日本政府が招聘した新興国や途上国からの官僚に英語で講義した。また、6か月の研修コースの受講生に対して論文指導を行った。 【大学での英語での教歴】 ・静岡県浜松市の常葉学園（浜松）大学国際経済学部で、7年間ビジネス英語を担当。 ・東洋大学国際（地域）学部の大学院で、14年間、英語で講義を行った。また、外国人大学院学生に対して、修士論文作成の指導を行った。学部では、12年間、英語で講義を行った。 ・上海の復旦大学（京都大学レベル）、上海外国語大学（東京外国語大学レベル）、北京四大学のひとつである北京師範大学で、講演を行い、講義も担当した。 英語以外の外国語としては、欧州の主な言語であるフランス語、スペイン語、イタリア語、ドイツ語などを取り上げる。教員の外国語の学習歴も紹介する。				
授業計画					
第1回	コミュニケーションの心得 外国語の種類				
第2回	外国語コミュニケーションの心得				
第3回	経済・経営の現代の課題 外国語の基本文法				
第4回	ロンドンとウィーンの経営（都市全体） 英語・ドイツ語コミュニケーション（基本文法）				
第5回	ロンドンとウィーンの経営（カフェ文化） 英語・ドイツ語コミュニケーション（基本文）				
第6回	スペインとイタリアの経済・経営（地域別） スペイン語・イタリア語コミュニケーション（基本文）				
第7回	スペインとイタリアの経済・経営（都市別） スペイン語・イタリア語コミュニケーション（基本文）				

第8回	スペインとイタリアの経済・経営（企業別） スペイン語・イタリア語コミュニケーション（基本文）
第9回	マドリードとローマの経営（都市全体） スペイン語・イタリア語コミュニケーション（応用文）
第10回	マドリードとローマの経営（外資） スペイン語・イタリア語コミュニケーション（応用文）
第11回	著名人・企業とコミュニケーション（多国籍企業） スペイン語・フランス語コミュニケーション（基本文）
第12回	著名人・企業とコミュニケーション（リーダー） スペイン語・フランス語コミュニケーション（基本文）
第13回	フランスの経済・経営（地域別） スペイン語・フランス語コミュニケーション（基本文法）
第14回	パリの経営（都市全体） スペイン語・フランス語コミュニケーション（基本文法）
第15回	パリの経営（企業） スペイン語・フランス語コミュニケーション（基本文法）
第16回	定期試験
授業時間外の学習	1. 授業で配るプリントや課題に十分にに取り組んでください。（1時間程度） 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。（0.5時間程度）
履修条件 受講のルール	なし
テキスト	なし
参考文献・資料	坂元浩一『教養系の国際経済論—総理解から次の一歩まで—』（電子書籍）大学教育出版、2012年。 坂元浩一『世界金融危機—歴史とフィールドからの検証—』大学教育出版、2010年。 坂元浩一『国際協力マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』頸草書房、1996年。
成績評価の方法	【レポート・小テスト（50%）、定期試験（50%）】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、授業中にミニ・テストを行うことがあります。 ※出席回数が規定に満たなかった場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は試験を受けることができません。
オフィスアワー	火曜日、木曜日 15時～16時
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	この授業を受けることによって、新しい世界が開かれることになるでしょう。未知の国々や地域、異なる言語、興味深い文物を知ることになります。また、新たなコミュニケーションの姿勢や態度をとれるようになります。 教員の海外経験や外国語学習経験を聞くことにより、皆さんが外国を、世界をより身近に捉えられるようになると思います。これまでに、63か国を166回訪問したことがあります。